話合いの工夫、板書を生かす工夫に力点を置いた「考え、議論する道徳科の授業」

宇戸田(黄(延岡市立恒富小学校)

授業のポイント

本実践においては、友達と意欲的に意見を交流しながら、ねらいとする価値と向き合い、価値観の認め合いや磨き合いが図られるような話合いや板書を生かす工夫に取り組みました。

指導においては、ねらいとする価値と向き合い、児童の思考の手助けをするために、矢印の色に 意味をもたせた構造的な板書を心掛けました。その上で、児童のより深い価値観を表出させるため に、心情円盤を活用し、グループや全体での話合いを行わせることにも配慮しました。

授業の実際

- (1) 主題名【教材名(出典)】 感謝の心を伝えるために【五十五年目の恩返し(光村図書)】
- (2) ねらい

「恩返し」について考えることをとおして、日々の生活が過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気付き、自分も人々や公共のために役に立とうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(3) 本時の展開

導入 教材名に着目させ、児童の問題意識を生み、学習テーマに繋げる。

- ア 教材名を「○○○○○の恩返し」と提示し、入る言葉をいくつか予想させました。その後、「『恩返し』という言葉を知っていますか。」と問い、辞書から「恩返し」の意味を紹介することで、本時のねらいへの方向付けを図りました。
- **イ** 教材名に「五十五年目」と挿入し、「『恩返し』はすぐに返さなくてよいのですか。」と問い、他の児童との考えの違いを共有させることで、児童の問題意識を生み、学習テーマにつなげました。

◆ 指導のポイント

児童の実態と教材の特徴を考慮し、感謝の気持ちに気付くだけでなく、それに応える大切さまで考えられるように、内容項目に示されている「感謝」ではなく、「恩返し」という言葉を学習テーマに使用しました。

展開 板書や心情円盤を活用し、話合いをとおして、価値観を広げたり深めたりする。

- **ア** 教材を範読後、ユダヤ人(主に、ユダヤ教を信仰している人々)と杉原千畝さんの挿絵を対比的に提示し、杉原さんが命のビザを発行した思いやユダヤ人がスギハラ基金を設立した思いを考えさせました。その際、杉原さんからの気持ちを青色の矢印で、ユダヤ人からの気持ちを赤色の矢印で板書することで、児童の思考を手助けし、価値に気付けるようにしました。(参照:板書※1)
- **イ** それぞれの思いを全体で共有した後で、「青と赤、どちらの矢印の気持ちの方が大きいだろう。」と問い、個人で道徳ノートに考えを記入させた後で、4人組(または3人組)によるグループや全体での話合いを行いました。その際、一人一人に心情円盤を使用させ、

価値観を視覚化することで、価値観の認め合いや磨き合いが図れるようにしました。

ウ テーマを振り返り、「あなたがまことだったらどんなことを考えますか。」と問うことで、 自己の生き方についての考えを深め、自分も人々や公共のために役に立とうとする道徳 的実践意欲と態度を育てられるようにしました。

◆ 指導のポイント

児童の思考を手助けするために、矢印の色に意味をもたせた構造的な板書を心掛けました。また、価値観の認め合いや磨き合いが図られるように、心情円盤を活用して価値観を 視覚化しました。(参照:板書※2)

終末 児童の詩を紹介することで、価値に対する考えを共有し、今後の生活に繋げる。

- **ア** 上記ウの発問に対する児童の考えを、意図的指名を取り入れながら全体に紹介することで、本時の学習テーマに対する様々な考えを全体で共有しました。
- **イ** 最後に本学級児童が作成した「感謝」という詩を紹介することで、これからの生活において感謝の気持ちを少しでも心に留めておけるようにしました。

◆ 指導のポイント

意図的指名では、ねらいに向かっているもの、これからの生き方について考えているもの、他の児童にはない考えのものなどを取り上げ、児童の価値観がさらに広がったり深まったりするようにしました。

板書※1

(4) 板書



評価のポイント

評価対象としたグループ(本時では、2 グループ8 人が対象)での話合いにおいて、友達の考えを聞いてどのように心情円盤の割合を変更したのかなど、価値観の広がりや深まりが見られるかに留意して評価しました。また、板書を手掛かりに本時の学習を振り返り、「あなたがまことだったらどんなことを考えますか。」の問いに対する考えを道徳ノートに書かせ、記述内容から本時のねらいにどれぐらい向き合っているのかを授業後に評価できるようにしました。

授業を振り返って

板書や話合いの工夫をしたことで、児童の価値観の認め合いや磨き合いが深まりました。本時は、「感謝」についての授業だったので、補助発問により、基金を設立したユダヤ人の思いをより深く掘り下げることができ、発問の工夫が重要であると感じました。



板書※2



►授業のダイジェスト 効画はこちら